

[2_5] 図書館情報 : 九州大学附属図書館月報 :
2(5)

<https://doi.org/10.15017/19463>

出版情報 : 図書館情報. 2 (5), pp.25-32, 1966-05-20. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :



図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin Vol. 2, No. 5 May 1966

文部省から本学に図書行政の改善措置を勧奨

——文部省大学図書館視察委員報告にもとづく——

すでに一昨年、日本学術会議の政府に対する勧告にもあったように、「大学図書館の改善充実」を推進することは急務である。大学図書館視察委員制度は、すでに図書館情報第1巻4号（昭40・12月）で紹介したとおり、文部省令によって設けられた制度である。

昨年12月1日、4名の視察委員による九州大学の实地視察があり、その概要は図書館情報第2巻1号（昭41・1月）に掲載しているが、このほど、公式文書をもって、文部省大学学術局長から本学学長あてに、大学図書館視察委員により指摘された下記の改善事項に十分留意の上、その整備充実かたを大学当局に要望する旨の通知があった。

1. 全学総合目録を可及的すみやかに整備する必要がある。
2. 全学図書館資料の相互利用体制を確立して、教官および学生の積極的な活用を促進し、あわせて、蔵書構成の改善をはかることが必要である。
3. 図書館職員の増強については、まず、全学的見地からの学内定員の調整等によることを検討すべきである。とくに、中央図書館および分館の図書館職員を早急に充実することが望ましい。
4. 中央図書館における参考奉仕業務を拡充強化する必要がある。
5. 全学的な構想のもとに、図書館関係者の意見をじゅうぶん反映させた、近代的中央図書館の新営を早急に実現させることが望ましい。

このことは、全学に周知のため、本部庶務部長名で各部局長にも通知された。これは、大学図書館の改善充実に大学全体が積極的にとり組むべきであるという文部省当局の識見と大学図書館近代化への姿勢を示すものであるが、今後学内での予算面および人員充実面等の改善措置に十分反映されることが切に期待される。

第68回附属図書館商議委員会

昭和41年4月8日（金）本部事務局第1会議室において、新年度初の附属図書館商議委員会が開催された。当日は、(1)昭和41年度予算案 (2)新館建築計画 (3)教養部分館運営規則の一部改正の3議題について審議されたが、その概要は次のとおりであった。

- (1) 昭和41年度予算案 中央館、医学部分館および教養部分館ごとに、昭和40年度における図書館活動の概要報告および昭和41年度予算案の説明があり、本学の予算経理委員会

に提出する昭和41年度振替予算要求案を含めそれぞれ原案どおり承認された。

- (2) 新館建築計画 前回の商議委員会で北川図書館長から発表された「大学図書館基本要項」(前号で紹介)に関連して、九大の新館建築計画案を再検討する場合の具体的事項について質疑応答があった。各部局としての意見は、5月20日の次回商議委員会において発表していただき、続く5月27日の商議委員会で審議を重ねて全体の意見を取りまとめ、新館建築計画を昭和42年度概算要求に提出することとなった。
- (3) 教養部分館運営規則の一部改正 本件については、本誌の記事のうち、「学内図書館のたより」の教養部分館の欄に詳細な記述があるので割愛させていただく。

「大学図書館施設計画要項」文部大臣に答申さる

去る昭和38年11月、文部大臣の諮問を受けて、大学図書館施設の整備改善の方策について検討しつづけてきた文部省大学図書館施設委員会は、去る昭和40年8月に事務上の都合で解散したが、その後、発足した大学図書館施設研究会議に実質上その審議をゆだね、引き続き検討作業が進められてきた。そして、去る3月24日大学図書館施設の基準について、「大学図書館施設計画要項」の結論を、文部大臣に対して答申した。もともと前記の委員会は学校施設基準規格調査会に属する一つの委員会であったが、大学図書館施設に関しては、組織・運営等のあり方と密接な関連があり、近代化の方策にも関連がある。さらに大学の組織・運営の基本原則という大きな前提がある。昭和38年11月から昭和41年4月まで、毎月1回各回平均6時間、総計約180時間におよぶ作業があった。東大、東北大および本学の図書館長は委員として参加、本学の北川館長は副委員長をつとめた。委員総数は約16名ないし20名、図書館学専門家、建築専門家も多数参加した。事務担当は文部省の教育施設部指導課であった。

第13次(昭和41年度)全国国立大学図書館長会議委員会(第1回)

〈とき：昭和41年4月25日(月) ところ：東京大学総合図書館集会室〉

委員長館(東京大学)、幹事館(一橋大学、横浜国立大学)、監査館(東京教育大学、神戸大学)はじめ、9地区の委員館18大学から館長・部課長・事務長ら計50名が出席した。

この委員会の任務は、第1に、総会(41年度は6月28、29日、岡山大学で開催)に提出する協議題の整理、その他の準備。第2に、総会で決議された事項の処理。第3に、特に緊急を必要とする事項については、館長会議の基本方針を逸脱しない範囲で適宜な措置をとり、総会の追認を求めることになっている。この会議に中央図書館からは、北川館長がインド国出張のため船越事務部長だけが出席した。

◆ 研 修

文部省主催国立大学施設講習会

〈とき：昭和41年4月26日(火)～28日(木) ところ：東京大学薬学部記念講堂〉

昭和41年度の本講習会は、大学図書館ならびに附属学校施設に関する概括的知識を修得させるために実施された。受講者は、国立大学および国立短期大学の事務局施設部課の技術職員ならびに図書館職員等約195人であったが、本学からは、図書館船越事務部長のほか、本部事務局施設部波呂計画掛長、今村第一工営掛長が参加した。

大学図書館の基準については、既述のとおり、大学図書館施設研究会議から文部大臣に対し、「大学図書館施設計画要項」について答申がなされたが、この講習会では、主として、この答

申ならびにその解説をテキストにして、1日半にわたって、5人の講師から詳細に説明が行なわれた。なお、大学図書館以外の附属学校施設については、残り1日半の日程で講習が行なわれた。

学内図書館のたより

〈中央図書館〉

指定図書の一部館外貸出制を開始

昭和37年度に指定図書制度を導入してからすでに4年になる。その間、指定図書は Reserved Book の運営方法をとってきた。指定図書室に行けば、いつでも教官の推薦による指定図書を閲覧できるという利点を配慮してのことであるが、利用者側の館外貸出の希望は開設当初からかなり強いものがあつた。60の席数にも満たない指定図書室の現状に加え、遠隔地からの通学学生や講義・実験実習の都合で指定図書室を十分利用できない学生が数多いので、本年度から一部館外貸出を実施することにした。

指定図書の本来の利点を失わないように配慮して、貸出の対象としては、当分(1)利用度の低いもの、(2)全般に利用の低い洋書全冊とする。また冊数および貸出期間は、1人1冊、和書2日間、洋書8日間とし、その利用状況の効果を観察しながら今後の指定図書室運営の参考にしていきたい。なお、指定図書については、貸出期限の延長または更新が認められないので、返納期日の厳守に特にご留意のこと。

〈農 学 部〉

農学部図書委員会開催

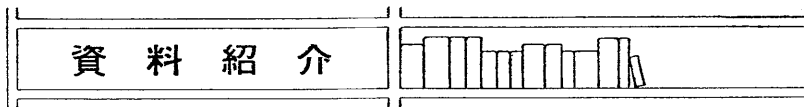
昭和41年4月20日、午後1時30分から4時まで、学部長室で開催された。議題は、(1)図書館の機構について (2)二階所蔵雑誌の整理について (3)昭和41年度予算案の編成について (4)重複受入雑誌の取扱いについて (5)その他 であつた。この回は、主事、委員とも新たな顔ぶれで、活発な論議がかわされた。

〈教養部分館〉

「教養部分館運営規則」の一部改正

教養部分館では、さる4月8日開催の第68回附属図書館商議委員会の上承を得て、昭和41年4月から分館運営規則の一部を改正した。改正の主な点は、学生に対する図書の貸出制度を大幅に改善し、奉仕活動の拡大をはかったことである。これまでの規則では、学生は「毎週火・木・土曜日に、1回2冊の図書を7日間」帯出することができた。しかし、この隔日の貸出制は、図書館奉仕のたてまえからいって改善する必要に迫られていた。さらに、教養部キャンパスは他のキャンパスから地理的に遠く離れているため、教養部学生の図書館利用の大部分を当分館に依存している等の事情もあるので、本年度から、図書の常時貸出制度を採用し、学生は「1日1冊、期間8日間として、毎日帯出することができる」よう改めることにした。

そのほか、指定図書制度の採用により、規則条項中の備付け図書区分の中に新しく「指定図書」の字句をそう入し、さらに、「助手および教職員の書庫内検索を認める」旨を明記する等、現行の制度に即した一部字句の補足を行なった。



アメリカン・ライブラリーについて

今 来 陸 郎

教養部分館の開架閲覧室の一ぐうにアメリカン・ライブラリーがあって、アメリカ研究の米書が配架されている。

このアメリカン・ライブラリーは、東京にあるアメリカ研究振興会のあつ旋によってアメリカ財団の寄附金で購入され、わが国の主要大学に寄贈されるものであるが、振興会の研究者代表の立教大学清水博教授の好意で、わが教養部にも贈られたセットである。それに教養部多久和教授の仲介で、アメリカ大使館の人物交流部から寄贈された数冊が加わっている。

今のところ、アメリカン・ライブラリーの図書は300冊あまり、その数は必ずしも多いとはいえない。しかし、数は少ないにしても、精選された図書ばかりで、歴史、文学、史学、社会科学など人文関係の研究にとって基礎的な、また重要な書物が多い。たとえば、歴史関係の書物の例をあげると、(1) Allen Nevins; Ordeal of the Union, 5 vols. (2) A guide to the study of the United States of America. (3) Concise dictionary of American biography. (4) The Population of the United States. (5) Historical statistics of the United States. などがある。(2)は図書目録でアメリカ研究にとって不可欠の書誌であり、(4)は人口統計であるが人口の現状ばかりでなく、時代による推移変遷を含んでおり、(5)の統計も植民地時代から現代までの変遷を示しているなど、いずれもアメリカ史研究の基礎的な資料である。

これら書物の選択はアメリカ研究振興会の主宰で、日米学者の協議によって行なわれた。日本側委員の清水博教授の話によると、アメリカ側の学者が日本のアメリカン・スタディの水準を比較的 low に評価して、啓蒙的、初歩的な書物を推せんしたのに対し、日本側委員は日本のアメリカ研究のレベルがそれほど低くないことを指摘し、研究的な書物の採用を主張した結果それらが多く取り入れられ、研究的な書物を中心とする現在のものとなったという。この結論は妥当であって、今日の日本のアメリカ研究者の多くは初歩的な書物を要しないであろう。

いまあるアメリカン・ライブラリーは、アメリカ研究振興会寄贈の第1回分であり、本年中にそれとはほぼ同量の第2回分が寄贈される予定で、分量は倍加されて600冊ほどになるはずである。しかし、その数も本格的なアメリカン・スタディの必要量にとって不十分であろうが、これが基礎になって、このアメリカン・ライブラリーがやがて充実して、九大のアメリカン・スタディの資料センターとなる日がくるかも知れないし、またそうしなければならないと思われるのである。

(いまき・りくろう：教養部教授)

Science Citation Index について

中央図書館における所蔵状況は下記のとおりである。

Science Citation Index—1961 (1963年発行) 全5冊

(中央図書館洋書参考図書室備付)

Science Citation Index は、アメリカ合衆国の科学情報研究所 (Institute for Scientific Information) から出版されている「学術論文の引用索引誌」である。

ところで、引用索引とは、学術論文や記事等に含まれている引用や参照を集めて、それを IBM 方式で整理し、一定の順序で配列したリストのことをいうのである。つまり、ある学術論文が、どの出版物の中で、誰によって引用されているかという問に答えてくれるのが引用索引の目的であり、使命である。この場合、引用された (Cited) 論文等を Reference Article といい、引用した (Citing) 論文等を Source Article とよぶ。従って、引用された論文等の著者、掲載の出版物、掲載時期を、それぞれ、Reference (Cited) Author, Reference Publication, Reference Year というが、ここではこれらを総称して Reference (の事項) とよぶ。一方、引用した方の論文の著者、掲載の出版物、出版年を、それぞれ Source (Citing) Author, Source Publication, Source Year といい、前者にならって、これらを Source (の事項) とよぶ。(別欄の記載様式を参照) 引用索引ができる以前は、引用に基づく文献探索は、単に過去にさかのぼるだけであったが、引用索引ができてからは、ある一つの論文が、その出現後にどのような影響を与えたかということ、ある幅をもって、歴史的に把(は)握することができるようになった。ここで、Science Citation Index の編者のことばを借りるならば、引用索引というものの特徴は、“What has happened since?” という問に答えることができる点にあるといえよう。

この Science Citation Index—1961 (1963年発行) には、世界の 28 カ国から選ばれた 613 種類にのぼる、自然科学の分野における主要な学術雑誌を Source Publication とし (そのうち、わが国で出版されているものは 27 種類)、収録された Reference Publication は 2 万種以上、また Reference の件数としては 140 万にものぼる膨大な量の引用が含まれている。さて、この Science Citation Index の使用法を説明するにあたって、まず、その記述形式を別欄の抜すいによって紹介しよう。

初めに、Reference (Cited) Author を見出し語としてアルファベット順に配列され、それぞれの見出し語のもとに、引用された論文すなわち、Reference Article の掲載欧文雑誌・図書等の略称 (雑誌は略語 (Abbreviation), 図書や会議名は頭字語 (Acronym), 論文の場合は “Diss” の略符) と、その掲載時期、論文の所在を示す巻号 (報告、回報は号数を表示)・ページ等が年代順にランクされている。ここで利用者は、まず、これらの Reference の事項と、次に述べる引用した方、すなわち Source の事項とを明確に区別してかかる必要がある。これらの Reference の事項の次に Source (Citing) Author が同じくアルファベット順に配列され、それぞれに、Source Article の掲載雑誌名およびその出版年・巻号・ページ等 Source の事項がリストされている。

では、ここで具体例により、この Science Citation Index を使って検索してみよう。

いま、仮に、Journal of American Chemical Society, Vol. 56 (1934) p. 658 に掲載の Lineweaver & Burk: The Determination of Enzyme Dissociations なる論文に関して、

これを引用した論文、換言すれば、この論文と主題範囲を同じくする論文にいかなるものがあるかを知りたいとする。ここで、再び別欄に示した関連部分（抜すい）をご参照いただきたい。まず著者 Lineweaver の項を引き（論文の著者が2人以上のときは、最初の著者が見出し語となる）、次に、該当する Reference の事項すなわち、…………… 34-J AM CHEM SOC ……………56 658 と記載された個所を求めると、そこには、上記の論文を引用している一群の論文・記事 (Source Article) の掲載個所を示すアドレスを見いだすことができる。いま、以上の方法を Science Citation Index—1961 に適用すると、Lineweaver のこの論文については、1961年中に出版されている世界の主要学術雑誌だけでも、実に、220 にのぼる論文中に引用されていることがわかる。

また、引用した論文の著者 (Citing Author) から、引用された論文の著者 (Cited Author) を知る手段としては、本誌の巻頭にある Source Article Index を利用することが便利である。これには、1961年の学術雑誌に発表された論文の著者（共著者の場合は最初の著者）のアルファベット順に、論文の掲載誌名、巻号、ページ等の論文のアドレスと引用の件数がリストされている。なお、1966年版では、論文の共著者・主題名をも掲載して検索機能の向上に一層の配慮がなされているようである。

従来の引用索引は、ことばによって組織化されていたため、利用者は専門用語に精通していることが必要であったが、これに対して、この Science Citation Index による検索では、その出発点においては、従来の索引における「主題(ことば)」に相当するものが情報または主題概念であり、従って利用者は、書誌学的・専門的な訓練を受けなくても、使用の経験を重ねるだけで、本誌を使いこなすことができるわけである。Science Citation Index は、別欄に示したように、その記述形式が非常に記号的、機械的であるので、一見、使用が困難のように見えるが、この様式に慣れ、略語や記号に習熟すれば、大変利用しやすい、しかも利用価値の高い索引誌であるといえる。

索引の結果、内容の照会を必要とする欧文雑誌の本学における所在については、さきに中央図書館が出版した「九州大学学術雑誌目録、自然科学欧文編」をご参照の上、必要とする雑誌について、各部局間で相互の有効な利用を計られることが望ましいし、また、他の大学で所蔵されているものについては、中央図書館等を通じて文献複写を依頼するなどの方法が可能である。また、出版元の科学情報研究所においても、Original Article Tear Sheet Service (OATS) を通じ、あらゆる Source Publication に記載の論文・記事の入手について便宜を計ってくれるはずである。



なお、中央図書館では、本学の理工科系学部からの強い要望により、できれば昭和41年度予算で本誌の1966年版(1964年の Source Journal にもとづく引用索引)を購入することを考慮しているが、この際、理工科系の研究者によって、本誌が一層有効に活用されることを切に期待するしだいである。

	Cited Author	Citing Author	Publication	Volume	Page
		Reference Year	Source Year		
Reference	LINEVSKY MJ	53	J AM CHEM SOC	75	3287
Source	MCCLOSKEY A		J AM CHEM S	61	83 1766
Source	MCCLOSKEY A		J AM CHEM S	61	83 4750
Reference		61	J CHEM PHYS	34	587
Source	WILLIAMS RL		ANN RP CHEM	61	58 34
Reference	LINEWEAVER H	33	J BIOL CHEM	99	575
Source	MUGURA J		POL MICROB	61	6 398
		34	AMER SOC	56	658
	FISCHER F		KLIN WOCH	61	39 202
	KRISCH K		BIOCHEM Z	61	334 312
		34	J AM CHEM SOC	36	658
	HIATT AJ		PLANT PHYS	61	36 552
		34	J AM CHEM SOC	56	3
	KUSHNAREV V		BIOCHEMIS R	61	26 604
		34	J AM CHEM SOC	56	568
	LEVY QA		BIOCHEM J	61	80 435
	TEPHLY TR		J PHARM EXP	61	131 147
		34	J AM CHEM SOC	56	638
	HOLMES R		CAN J BIOCH	61	39 45
		34	J AM CHEM SOC	56	658
	ABDEL LA. A		J BIOL CHEM	61	256 2710
	ADA CL		J GEN MICRO	61	24 409
	ALLFREY VG		P NAS US	61	47 907
	AMELUNG D		DEUT MED WO	61	86 731
	ARORA KL		J SCI IND R	61	203 227
	ASAHI T		J BIOL CHEM	61	236 1930

*before and after
cited year identifies
earliest paper cited
for that author.

H. Lineweaver's article in
J AM CHEM SOC 56:658(1934)
was cited by G. L. Ada in
J GEN MICRO 24:409(1961).

Abbreviation の例

J AM CHEM SOC-----Journal of the American Chemical Society
J CHEM PHYS-----Journal of Chemical Physics
ANN RP CHEM-----Annual Reports of the Progress of Chemistry
J BIOL CHEM-----Journal of Biological Chemistry
POL MICROB-----Folia Microbiologica
KLIN WOCH-----Klinische Wochenschrift

司書・司書補講習案内

昭和41年度の司書・司書補講習会は、九州地区では下記により開催される。

		別 府 大 学	佐賀龍谷短期大学
講習期間		昭和 41,7,18~9,1	昭和41年 7,20~8,30
受講資格	司 書	1, 大学(短大, 旧制高校・専門学校等を含む)を卒業した者 2, 司書補の資格を有する者 3, 図書館法付則第8項の規定に該当する者	
	司書補	1, 高等学校(旧制中等学校等を含む)を卒業した者	
受講料		7,000 円 その他教材費等若干徴収の予定 ただし一部を受講しようとする者については1単位毎に 500円	6,000 円 その他教材費若干 ただし一部を受講しようとする者については1単位毎に 600円
申込期間		昭和 41,7,1 まで ただし申込人員が多数の場合は, 期日前に締め切ることがある	昭和 41,6,1 から 7,10 まで
申込先		別府市北石垣円通寺82 別府大学庶務課講習係 電話(代表) ⑥ 0 1 0 1	佐賀市水ヶ江三丁目 佐賀龍谷短期大学図書館司書講習係 電話 佐 賀 ③ 2 3 8 1

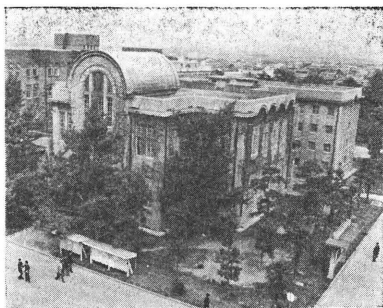
学内図書館めぐり

中央図書館の沿革 (6)

戦後の図書館

(1) 終戦を迎えて 昭和20年8月15日正午、職員は全員司書官室に集められ、終戦に関する詔勅のラジオ放送を聞いた。一同静まりかえって悲痛な面持ちで、遂にくるものがきたという感じを厳粛に受けた。学内に駐留していた軍隊も早々にいずこかへ引きあげた。

国民はしばらくの間は、全く文字どおり虚脱状態になった。食糧は遅配、欠配が続く、闇(やみ)物資を買わなければ、生きていけない時代がきたのである。戦時中に引き続き極めて少数発行される新刊書も無味乾燥で、心を潤すものがなかったというのが実情であった。しかし、応召していた職員や学生が相次いで帰還して、大学内にも次第に生氣を取り戻してきた感があった。



(2) 疎開図書の回収 戦時中、箱崎地区および医学部(病院)地区とも戦災をうけないですんだのは幸いであった。終戦後中央図書館の第一の仕事は、疎開中の図書を早急に回収することであった。まず、太宰府神社に保管を依頼していた貴重図書は、昭和20年11月に何の異状もなく無事に書庫の中へ納め、ついで、12月には粕屋郡宇美町の民家の分が回収できた。最後に昭和21年1月中に、佐賀県大町町および多久村に疎開中の図書が1冊の事故もなく全部無事に戻ったのは幸いであった。中央図書館は、幸いに建物が戦災をまぬがれ、また疎開図書もすべて回収できたので、直接戦争の被害をうけずにすんだわけである。

(3) 帝国大学官制の公布 昭和21年4月1日、勅令第205号をもって、帝国大学官制が公布され、総長以下の職制および文部教官、文部事務官、文部技官の級別定員が定められ、同時に九州帝国大学官制が廃止された。これまで帝国大学はそれぞれ別個の官制を持っていたのであるが、それが共通の官制の下におさめられることになったわけである。この新官制の公布により、図書館関係では、司書官・司書・書記の職種がなくなり、文部事務官に統一された。また身分も1級官・2級官・3級官の名にあらためられた。

〇〇 あとがき 〇〇

先日学内アンケートの意見欄に、本誌の発行・配布事情について質問がありましたので、この欄を借りてお答えします。本誌の発行日は毎月20日を原則としていますが、編集・印刷等の事情により、発行が一週間程度遅れることがあります。遅くともその月中には印刷を完了します。学内の教官(助手以上)の方々には、各部局事務部のご協力を得て配布をお願いしています。また、学生諸君には印刷部数の不足上、発行の都度、配布用として限られた部数だけを中央図書館に置いています。なお、各部局の図書室にも備えて供覧できるようにしてありますから、どうかご利用ください。